

本格的な再生 今年こそ

安心の島づくりに新たな決意で



「ロック〜わんこのしま〜」島民参加でロケ風景、左から二人目が佐藤隆太さん

初春のお慶び申し上げます。旧年中は、格別のご厚情をたまわりありがとうございました。本年も一層のご芳情をたまわりますようお願い申し上げます。

本紙も向上海校卒業生による「DTPA」の編集、取材の他、印刷、配布、ご寄付など皆さまのご協力で31号までの発行の運びとなった。今後三宅島の現状や課題などについて、被災者の立場から全国に発信を続けて

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと
再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

〇ふるさとネット新年会
のお知らせ

日時：2011年1月29日(土)
場所：ビストロおきみくら
・品川区南品川3-5-3
青横ビル3階

・TEL 03-5715-3688
(京浜急行青物横丁駅
徒歩2分)

会費：5千円
皆さまのご参加をお待ちしております。

〇ご寄付のお願い

郵便振替口座
口座番号：00120-3-545036
口座名称：三宅島ふるさと
再生ネットワーク
事務局：あすなろ保育園内
郵便番号：173-0005
住所：板橋区仲宿 25-6
電話・FAX：03-(3963)5697
担当 横山

撮影順調「ロック〜わんこのしま〜」

島民がエキストラなどで協力

今年は、明るいニュースをお届けしよう。東宝がフジテレビと提携して「ロック〜わんこのしま〜」を映画化し、7月中旬に全国の劇場で公開する。

この物語は、三宅島の2000年噴火にともなう全島避難で逃げ遅れて家族と離れ離れになりながら、再会して島に戻ることでできた一匹の愛犬に関する実話をもとにした物語だ。

中江功監督、佐藤隆太、麻生久美子、倍賞美津子などが出演する。この映画に対する島民の期待は高く、寒風と悪

いきたい。ご協力を頂いている皆さまに心より感謝しながら、2、3面で発刊から30号までを振り返り、災害における情報発信の課題についても触れることにした。

今年の課題は、大きく二点ある。第一点は、千

余の請願署名と村議会が満場一致で採択した人工透析の設置・導入を実現することである。第二点は、高濃度地区の問題。12月4日突然夕刻のNHKテレビニュースで坪田高濃度地区解除予定(155世帯300人)の誤報。正しくは4月か

天候の中、11月末まで続いた島内ロケにエキストラとして多くの人が協力した。

ふるさとネットにも早くから映画関係者から協力要請があり、避難中の支給品目やテレビ、洗濯機などの写真、ふれあい集会の映像・開催資料などを提供。またスタッフに約70食分、Mさんの赤飯を会長とともに差し入れた(佐藤)

中に行われた「島民ふれあい集会」にボランティアとして参加。そこで、当時「島民連絡会」の会長だった佐藤就之さんに取材をした。このことがきっかけで、その後佐藤さんが島民支援のための「三宅島ふるさと再生ネットワーク」を立ち上げた際に、卒業生が広報紙発行の手伝いをするようになった。

その活動はさらに発展し、現在では東京都や神奈川県に在住在京高齢者の訪問活動を行っているほか、これまでに5回島を訪ねている。

高濃度地区から期待の声 50歳代女性からの手紙

私は、高濃度地区に住居があります。災害被災者にとっては将来不安を抱えていますので正しい情報を何時も求めています。にもかかわらず12月4日のNHKテレビ首都圏ネットワークが坪田高濃度地区の「立ち入りの規制を解除」し「早ければ年明けにも」と放送、5日の各新聞でも「住居制限解除」「1月にも」等と記事が出ました。

皆で大喜びして内地の人にも電話をしたりしました。そしたら6日当日、夜に高濃度地区説明会を開くと、突然村役場が全島放送。内容を聞くと「誤報」で、4月1日から期限なしの一時滞在方式で19歳未満はダメ、生活のためのお店や民宿もダメなど厳しい条件付きでした。正直がっかりしました。

どうやって生きていくの。これでは、ほとんどの人が戻れない。8月1日に規制解除された御子敷地区でも4世帯中1世帯だけ。30号まで「三宅島新報」を読んできましたが期待しています。

ご苦労様です。これからも早期に高濃度地区が解除できるように、私たちの声を取り上げてください。

新報発行 30号のまとめ

繋げる紙面

災害とミニコミ紙

人間関係づくりに必須

神戸の状況 黒田さんに聞く

1995年の阪神淡路大震災以来、被災者の支援を続けてきたNPO法人阪神高齢者・障害者支援ネットワークの理事長である黒田裕子さんは、

「災害直後や復興期におけるミニコミ紙は、被災者の方々とつて会話のきっかけとなり、コミュニケーションを強化する欠かせないツールです」と話す。



黒田裕子さん

阪神淡路大震災では、多くの住民が家を失い仮設住宅へ移住することになったため元々あったミニコミニティは崩壊した。被災者の支援を始めた黒田さんがまず行っただけは、仮設住宅に掲示板

を設置して、そこに広報紙を貼り、被災者同士の情報交換の場とすることだった。その後、仮設住宅から復興住宅に移った被災者は、二度目のミニコミニティ崩壊を迎えることに



神戸市西区にあった仮設住宅（1997年）

なつた。黒田さんは、仮設時代にも開設していたふれあい喫茶を復興住宅でも開き、被災者同士交流の場とするとともに、「ひろば」というニューズレターを約4カ月に一回の割合で発行し続け、そこに来られない人にも情報を提供している。さらに「ひろば」の内容は、被災者の生活に必要な情報を提供することによって留まらない。被災者の現状や国内外での支援

ネットワーキングの活動などを多くの人々に伝えることで、復興がまだ終わっていないことを伝え続けてきた。その結果、ボランティアや募金などの私たちの協力をしてくれる人も多いという。黒田さんは、「三宅島新報は、紙面に臨場感があつて、伝わるものが多くあります。神戸と同様に島民同士のコミュニケーションを図るツールになっていいると思います」と話した。

DTPA代表 相澤春歌 読者の声にやりがい

報は大学生が中心となつて編集作業を行つていて。勉強やサークル、バイトなど合間の時間を使い記事を書いたり、取材に行ったりなど正直たい

全島避難指示解除から5年、先輩から引き継いだ三宅島新報の発行も30号を過ぎた。三宅島新

嬉しかった「読んでますよ」

へんなことも多いが、高校時代に戻ったようで、楽しく活動している。また、三宅島に行ったときなど、「読んでますよ」や「ご苦労さん」などの声をかけていただきたき、やりがいを感じるとともに、その必要性を改めて感じた。微力ではあるが、これから、島民の方、在京の方が必要としている情報を載せられるようにさらに頑張っていきたい。

【お知らせ】

○浅沼稲次郎さん追悼「60年
安保」同志の集い

日時：12月12日(日)

場所：総評会館

呼びかけ人：横路孝弘、渡部恒三他

○社協・福祉まつり 1月15日(土)

○神着老人クラブ新年カルタ・
百人一首大会(世代間交流)

日時：2月11日(金)

場所：神着老人福祉館

【お便り】

映画「わんこのしま」大江響
子助監督さんのお便り

大変お世話になっております。多くの変更及び長期に渡る資料の借用でご迷惑をおかけしました。本当にありがとうございました。また何かありましたら宜しくお願い致します。(電話で)「島のロケ最終日に沢山の赤飯差し入れありがとうございました。毎日弁当の食事でしたので皆さん喜んでおりました。Mさんによろしく」とのことでした。

【ご寄付者名】

広部敏政様、横井和之様、佐藤宗ノ子様、T様、吉野文雄様、吉田信行様、佐藤就之様(10月16日～12月15日)ありがとうございました。

上、す。きにす。い局、島てく、り、で、ペン、り、お、おいしい、料理、を作、つ、て、く、だ、さ、い、ま、す。様、々、な、意、味、が、あ、る、こ、と、と、自、負、し、て、い、ま、す。こ、れ、か、ら、も、皆、様、の、期、待、に、応、え、ら、れ、る、よ、う、な、情、報、発、信、を、し、て、い、き、たい、と、思、い、ま、す。今、年、も、よ、ろ、し、く、お、願、い、し、ま、す。寒、い、日、が、続、く、季、節、と、な、り、ま、し、た、が、ご、自、愛、く、だ、さ、い。(DTPA一同)

第18回世話人会 11月17日に 訪問活動の方針など確認 ニーズに合わせた対応のために



来年の活動について話し合った世話人会

18時30分から行われた世話人会では、「在京者訪問活動報告」、「5周年記念式典参加報告」、「三宅島新報について」など、訪問活動の報告では、5周年の節目というところもあるため、これからは在京島民のニーズに合った活動をしていくという意見が挙がった。また、5周年記念式典については、参加した世話人から「活気ある三宅島を見

第18回世話人会が、11月17日に巣鴨の喫茶店ルノール会議室で行われた。参加者は会長、副会長を含め世話人11人。在京者訪問活動や新報の発行などに関する今後の方針などが話し合われた。

ることができた」などの意見があった。さらに来年の三宅島新報に関しては、今までの訪問活動のまとめなどを載せていく方針となった。そのほか、1月29日開催予定の、新年会の内容も話し合われた。スライドショーをつくらたり参加者に楽しんでもらえる出し物などを考えて、お馴染みの方はもちろん、新しい人にも参加してもらえるように工夫して呼びかけようということでも話がまとまった。

1月29日に実施

交流の集い 新年会にご出席ください

1月29日(土)の新年会にご参加ください。会場はビストロおきみ

三宅島噴火始末記-帰島5年間の記録- 村榮先生著

帰島後5年間の苦労を記録



村榮先生著の「三宅島噴火始末記-帰島5年間の記録-」の内容

を紹介する。

この本には、噴火から10年たった今も火山ガスが噴出し続けている中で、暮らしを立て直そうと努力している人々の、帰島後5年に渡る試行錯誤の

道のりが記されている。

島民である村さんの経験など三宅島の実況が医療や高濃度地区、施設についてなど様々な視点から描かれているので、島民の方でも新たな情報を得られる内容になっている。

ぜひ一読ください。

本体1400円+税

発行文芸社 03-5369-2299

編集後記

今回、2、3面に特集を組んだことで、三宅島新報の存在意義や今後の展望を様々な視点から考えることができました。

30号まで続いたことは意味があることと自負しています。これから皆様への期待に応えられるような情報発信をしていきたいと思っております。今年もよろしくお願ひします。寒い日が続く季節となりましたが、ご自愛ください。(DTPA一同)